

SHARING WITH NATURE 7+∞とつくる変化のループ

主催 Parupa☆Ro
 共催 アートラボはしもと
 後援 アートラボはしもと事業推進協議会（相模原市・女子美術大学・桜美林大学・多摩美術大学・東京造形大学）

開催日：平成26年3月14日（金）～3月23日（日） 来場者数：527人

時間：10:00～17:00 実施場所：アートラボはしもと

参加学生：上田侑生／リュ・スンウォン／上村美帆／小山維子／伊藤春香／内田涼／キム・ジナ

内容：〈nature- 自然〉

〈nature- 自然〉というものをイメージすると、ジャングルや富士山、公園や田畑、さらには地球規模の環境問題など、たくさんの言葉が思い浮かびます。このように、〈自然〉というものを明確に示すことはなかなか難しい作業です。私たちは、捉え方によって様々な表情を見せるこの〈自然〉というものに、大変興味を持ちました。

〈自然〉に対して人々はどういったイメージを抱いているのか。同級生や留学生に質問したところ、「自然は遠い存在」「自然と共存することはできない」など、その捉え方は様々であり、特に育った環境や国籍によって意見も大きく異なりました。それでは、〈自然〉をテーマに制作をする同世代の表現者たちは、これに対してどのようにアプローチしているのか。自分の大学だけでなく、他の大学にまで足を延ばして尋ねているうち、次々と今回のメンバーが集まりました。しかし、メンバーの間で認識を共有するための話し合いを重ねても、結局〈自然〉についてのイメージをまとめることはできず、ならばいっそのこと、杓子定規に当てはめず、まずは形＝作品にしてから、この問題について考えてみようという結論にいたりしました。

今回、私たちは作品展示、共同制作、トークショーなどを通し、様々な視点を取り込みながら、実験的に〈自然〉についての模索をしていきます。会期中にも進展する〈自然〉のイメージの広がり、果たしてどこに向かい、私たちを導いてくれるのでしょうか。皆様もぜひ、この場で目撃してください。

—Parupa☆Ro（上田侑生、リュ・スンウォン）



関連イベント

ゲストアーティストによるトークイベント

開催日：平成26年3月15日（土） 参加者数：28人

ゲスト
 南条 嘉毅 1977年香川県生まれ。2002年、東京造形大学研究科修了。
 Yoshitaka Nanjo 自身の足で歩き題材となる現地に赴き、町や山々の景色を観察・収集し「土」を使い制作している。
 2012年、越後妻有アートトリエンナーレ、水と土の芸術祭に参加。2013年には故郷・香川県の美術館で個展が開催される。
 ジェームズ・ジャック アメリカ出身。2008年に皇太子明仁親王奨学金を受け渡日。
 James Jack アートライター、アーティストとして活躍。美術館やギャラリーのカタログ等に主に寄稿。
 瀬戸内国際芸術祭、ホノルル美術館、釜山ビエンナーレシーアートフェスティバル、ICA シンガポールでの展覧会。

内容：1部 南条嘉毅とジェームズ・ジャックの作品紹介
 2部 共同制作の場でのディスカッション

ゲストからのコメント：「環境」とは何かという問いに、思想家ティモシー・モートンが「そのまま表すことのできないものである」という一つの定義をしています。
 より広範で流動的な定義を採用すると、環境そのものの定義にずれが生じます。環境における作品はそのずれた現実を扱うものではないでしょうか。
 ジェームズ・ジャックと南条嘉毅のアプローチで共通しているテーマは地層、土、場所性があげられます。
 そこで、お互いの作品、制作スタンス、フィールドワーク、制作方法などをスライドで紹介し、出品作家とディスカッションします。



7+∞とつくる小さな世界（公開共同制作）

開催日：平成26年3月20日（木） 参加者数：6人

内容：今回、私たちは作品を設置するだけでなく、会期中に並べられた作品や、トークイベント、共同制作を通して、一人ひとりが自然、日常、環境のイメージをひろげ、どのような意味で使っているかについて話し合いながら表現します。現在進行形の姿勢をとることにより、その領域について現場で考えます。



ギャラリーツアー

開催日：平成26年3月21日（金） 参加者数：8人

内容：出品作家が展示作品について解説しました。

